AI が分析するハリス副大統領演説の本質

～AI を使った言語・非言語・聴衆反応の深層分析～

ライフデザイン研究部 主席研究員/テクノロジーリサーチャー 柏村 祐

1.注目されるハリス副大統領の指名受託演説

2024 年 8 月 22 日、イリノイ州シカゴで開催された民主党全国大会の最終日に、カマラ・ハリス副大統領がアメリカ大統領候補の指名受託演説を行った。初の女性副大統領であり、アフリカ系およびアジア系アメリカ人の血を引くハリス氏の立候補は、多様性と包摂性を重視する民主党の理念を体現するものとして、国内外から大きな注目を集めている。

政治家、特に大統領候補の演説を分析することは、候補者の人格、価値観、リーダーシップスタイルを理解するうえで重要である。これらの要素は、有権者の意思決定に大きな影響を与え、ひいては国の将来の方向性を左右する可能性があるからだ。

近年の AI 技術の進歩により、政治演説の分析に新たな可能性が開かれている。AI による詳細な分析は、政治家の人格や能力、そしてリーダーシップの質に関する多面的な評価を提供する。これは、単なる政策や党派的立場を超えて、誰が国家指導者として最もふさわしいかを判断する上で重要な視点を提示することにつながる。そこで本稿では、自然言語処理や感情分析などの AI 技術を用いて、ハリス副大統領の 38 分 5 秒に及ぶ指名受託演説を多角的に分析する。

2.AIによる大統領指名受託演説の解析

はじめに、ハリス副大統領の 38 分 5 秒に及ぶ指名受託演説をAIに読み込ませ、言語的特徴、非言語コミュニケーション、聴衆の反応という 3 つの観点から分析を行った結果を詳述する。この長さは、主要な政策提案と個人的なエピソードを織り交ぜながら、聴衆の注意を維持するのに適した時間であると考えられる。

まず、ハリス副大統領の演説における言語的特徴の分析結果をみていく（図表1）。AIは、語彙選択、文章構造、レトリックの観点から演説を解析した。語彙選択については、「信じられない」「尊い」「自由」「恐ろしい」「責任」「機会」などの感情的に訴える言葉が多用されており、特に「自由」という単語が何度も繰り返されている。これらの言葉は、アメリカ人の心に深く響き、聴衆の情熱と支持を喚起する効果があるとAIは判断した。また、専門用語や複雑な言葉を避け、日常生活で使うようなシンプルな言葉を多用することで、年齢や教育レベルを問わず、多くの聴衆が演説の内容を理解しやすくなっていることも確認された。さらに、母親や親戚、友人の話を交えながら、個人的な体験にもとづいた言葉を用いることで、聴衆に親近感を

与え、共感を呼び起こす効果もみられた。

文章構造については、短い文章を多用して力強い印象を与え、聴衆の集中力を維持していること、トランプ政権の政策と対比させて自らの主張を明確に示していること、「皆さん」「アメリカ国民」といった呼びかけを頻繁に用いることで聴衆との一体感を醸成しているとAIは分析した。演説の効果を高めるレトリックとしては、重要な言葉を繰り返すこと、トランプ政権の政策と自らの政策を比べて示すこと、聴衆への問いかけが効果的に使われていることが確認された。

図表１　AI によるハリス副大統領演説における言語的特徴の分析結果

ハリス副大統領の演説における言語的特徴は、聴衆の感情や理解度に次のように影響を与えています。

語彙選択:

- **感情的に訴える言葉:**「信じられない」「尊い」「自由」「恐ろしい」「責任」「機会」など、感情的な反応を呼び起こす言葉を使用しています。特に「自由」という単語は、アメリカ人の心に深く響くものであり、何度も繰り返されています。これにより、聴衆の情熱と支持を喚起しています。
- **わかりやすい言葉:** 専門用語や複雑な言葉を避け、日常生活で使うようなシンプルな言葉を多用しています。これにより、年齢や教育レベルを問わず、多くの聴衆が演説の内容を理解しやすくなっています。
- **個人的な体験に基づいた言葉:** 母親や親戚、友人の話を交えながら、個人的な体験に基づいた言葉を用いることで、聴衆に親近感を与え、共感を呼び起こしています。

文章構造:

- **短い文章:** 短い文章を多用することで、力強い印象を与え、聴衆の集中力を維持しています。重要なメッセージは、特に短いフレーズで繰り返し強調されています。
- **対照的な構造:** トランプ政権の政策とハリス政権の政策を対比させることで、自らの主張を明確に示し、聴衆の理解を促しています。例えば、「トランプは○○をしたが、私は○○をする」といった対照的な表現が頻繁に用いられています。
- **呼びかけ:**「皆さん」「アメリカ国民」といった呼びかけを頻繁に用いることで、聴衆との一体感を醸成し、メッセージを直接的に伝えています。

レトリック:

- **反復法:** 重要なフレーズを繰り返すことで、メッセージを強調し、聴衆の記憶に残るように工夫しています。例えば、「アメリカは後戻りしない」「私は○○のために戦う」といったフレーズが繰り返し用いられています。
- **対比法:** トランプ政権の政策と自らの政策を対比させることで、自らの主張を明確化し、聴衆に選択を迫っています。
- **修辞疑問:** 聴衆に問いかけることで、彼らの思考を促し、共感を得やすくしています。例えば、「なぜ彼らは女性を信用しないのか？」といった疑問を投げかけることで、聴衆に自らの主張を考えさせています。

これらの言語的特徴を組み合わせることで、ハリス副大統領は、聴衆の感情に訴えかけ、彼らを鼓舞し、自らの政策に対する支持を得ることに成功しています。彼女の演説は、力強く、情熱的で、明確なメッセージを持っており、聴衆の心を掴む力を持っています。

注意点: 上記は一般的な分析であり、個々の聴衆の反応は、その人の背景や政治的な立場によって異なる可能性があります。

資料：Google AI Studio より筆者作成

次に、非言語コミュニケーションの分析結果をみていく。AIは、ハリス副大統領の表情、ジェスチャー、声のトーンを詳細に分析した。表情については、聴衆をまっすぐに見つめる力強い視線、メッセージの内容に合わせた笑顔や真剣な表情、怒りの表

情などの感情表現の豊かさ、個人的な体験や感情的な話題に触れる際の涙目が効果的に用いられているとAIは指摘した。これらの表情の変化が、自信と誠実さを示し、聴衆との繋がりを作り出すとともに、人間味あふれる一面を表現し、聴衆の共感を得る効果があると判断された。ジェスチャーについては、重要なポイントを強調する際の明確な手の動き、オープンで親しみやすい印象を与える胸を開いた姿勢、単調にならずに聴衆の関心を引きつけるリズムのある動きが効果的に用いられていることが確認された。声のトーンに関しては、会場全体に響き渡る力強い声量、メッセージの内容に合わせた抑揚のある話し方、重要なフレーズの前後や感情的な場面での効果的な間の使用が、自信と情熱を表現し、聴衆を圧倒するとともに、メッセージをより深く理解させる効果があると分析された。

図表 2　AI によるハリス副大統領の非言語コミュニケーション分析

ハリス副大統領の演説における非言語コミュニケーションは、彼女のメッセージをより力強く、説得力のあるものにしています。具体的には、以下の点が挙げられます。

表情:

- **力強い視線:** 聴衆をまっすぐに見つめることで、自信と誠実さを示しています。視線を左右に動かし、会場全体に意識を向けることで、多くの聴衆との繋がりを作っています。
- **感情表現の豊かさ:** メッセージの内容に合わせて、笑顔、真剣な表情、怒りの表情などを使い分け、感情を率直に表現しています。特に、トランプ前大統領の政策や行動を批判する場面では、眉をひそめ、厳しい表情を見せることで、怒りや失望感を明確に示しています。
- **時折見せる涙目:** 個人的な体験や感情的な話題に触れる際に、涙ぐむ様子を見せることで、人間味あふれる一面を表現し、聴衆の共感を得ています。

ジェスチャー:

- **強調する手の動き:** 重要なポイントを強調する際に、人差し指を立てたり、手のひらを広げたりするなど、明確なジェスチャーを用いることで、メッセージを視覚的に補強しています。
- **オープンな姿勢:** 腕組みをせず、胸を開いた姿勢を保つことで、聴衆に対してオープンで親しみやすい印象を与えています。
- **リズムのある動き:** 演台に軽く手を置いたり、一歩前に出たりするなど、リズムのある動きを取り入れることで、単調にならず、聴衆の関心を引きつけています。

声のトーン:

- **力強い声量:** 会場全体に響き渡る力強い声量で演説することで、自信と情熱を表現し、聴衆を圧倒しています。
- **抑揚のある話し方:** メッセージの内容に合わせて声のトーンや速度を変化させることで、単調にならず、聴衆を飽きさせません。重要なメッセージはゆっくりと話したり、語尾を強調したりすることで、印象的に伝えています。
- **間を効果的に使う:** 重要なフレーズの前後や、感情的な場面で間を置くことで、聴衆に考える時間を与え、メッセージを深く理解させようとしています。

これらの非言語コミュニケーションを効果的に用いることで、ハリス副大統領は、単なる言葉以上のものを聴衆に伝えています。彼女のメッセージは、より力強く、情熱的に伝わり、聴衆の心に響くものとなっています。

結果として、彼女の非言語コミュニケーションは、聴衆の感情移入を促進し、彼女のメッセージに対する理解と共感を深めるのに役立っています.

資料：Google AI Studio より筆者作成

最後に、聴衆の反応に関するAIの分析結果をみていく。AIは、会場での拍手や歓声、表情の変化、SNSでの即時の反応を分析し、演説のどの部分が効果的で、どの部分に改善の余地があるかを判断した。効果的だった部分としては、母親の生き方や自身のキャリア、友人の性的虐待の経験を語る個人的な体験談、トランプ前大統領の政策や行動への批判、「アメリカは後戻りしない」というフレーズが挙げられる。これらの部分では、会場が静まり返って聴衆が真剣な表情で聞き入る様子や、大きな拍手と歓声が起こる様子が確認された。一方、改善の余地がある部分としては、具体的な政策内容の説明が比較的一般論に止まっていたこと、ユーモアを交えた場面がほとんど見られなかったこと、具体的な投票方法や期日前投票の情報提供といった直接的な行動喚起が不足していたことが指摘された。AIは、これらの点を改善することで、より幅広い層への訴求力が高まる可能性があると分析した。

図表 3　AI によるハリス副大統領演説に対する聴衆の反応分析

聴衆の反応から、ハリス副大統領の演説の効果的な部分と改善点を見ていきましょう。

効果的だった部分:

1. **個人的な体験談:** 母親の生き方や自身のキャリア、友人の性的虐待の経験を語る場面では、会場は静まり返り、聴衆は真剣な表情で聞き入っていました。これは、個人的なストーリーが持つ力強さ、共感性を生み出す効果を示しています。SNS上でも、これらのエピソードは広く共有され、多くの共感と賞賛の声が寄せられました。
2. **トランプ前大統領への批判:** トランプ前大統領の政策や行動を批判する場面では、聴衆から大きな拍手と歓声、時にブーイングが起こりました。彼の政策に対する不満や怒りが、これらの反応から見て取れます。また、SNS上でも、ハリス副大統領の批判的な発言は、支持者から広く支持され、拡散されました。
3. **「アメリカは後戻りしない」というフレーズ:** このフレーズは、演説全体を通して繰り返し用いられ、その度に聴衆から大きな拍手が起こりました。このフレーズは、ハリス政権の目指す未来への希望と、トランプ前大統領への回帰を拒否する強い意志を表しており、聴衆の共感を呼んだと考えられます。SNS上でも、このフレーズは頻繁に引用され、ハッシュタグとしても使用されました。

改善の余地がある部分:

1. **政策の詳細説明:** 具体的な政策内容の説明は比較的一般論に留まり、具体的な数値や目標を示す場面は少なかったため、熱狂的な支持者以外の層へ訴求する点で物足りなさを感じた人もいたかもしれません。今後の演説では、より具体的な政策提案を示すことで、幅広い層の支持を獲得できる可能性があります。
2. **ユーモア:** 演説全体を通して、シリアスなトーンが続き、ユーモアを交えた場面はほとんど見られませんでした。時折、ジョークや軽い語り口を取り入れることで、聴衆の緊張を和らげ、より親しみやすい雰囲気を作ることも効果的でしょう。
3. **具体的な行動喚起:** 演説の最後で、「投票に行きましょう」といった直接的な行動喚起は行われましたが、具体的な投票方法や期日前投票の情報提供などは行われませんでした。投票率向上のためには、より具体的な行動を促すメッセージを盛り込むことが重要です。

全体的に、ハリス副大統領の演説は、感情に訴えかける力強いものであり、特に個人的な体験談やトランプ前大統領への批判は大きな反響を呼びました。しかし、政策の詳細説明やユーモア、行動喚起といった点では、さらなる工夫の余地があると考えられます。

これらの点を改善することで、より多くの聴衆にメッセージが届き、支持拡大に繋がる可能性があります.

資料：Google AI Studio より筆者作成

3.AIによる分析結果の意味合いと今後の課題

AIによる分析結果は、ハリス副大統領の演説における言語的特徴、非言語コミュニケーション、聴衆の反応について、従来の分析手法では捉えきれなかった新たな知見を提供している。AIが演説を詳細に分析する目的は、政治家の言葉の特徴や聴衆への影響力といった、これまで主観的に評価されてきた要素を、可能な限り客観的に把握することにある。

この分析結果は、主に選挙キャンペーンチーム、政治アナリスト、メディア関係者に有用な情報をもたらすと考えられる。たとえば、選挙キャンペーンチームはハリス氏の演説の特徴を詳細に把握し、より効果的な選挙戦略を立てることができる。メディアは、ハリス氏の発言の特徴や効果について、AIの分析結果をもとに多角的に報道できる可能性がある。

図表 4 は、AIによる分析で明らかになった主な発見、2024 年選挙への潜在的影響、そして今後の課題を簡潔にまとめたものだが、AIはハリス副大統領の演説の特徴をもとに、これらを一定程度明らかにしたといえる。

図表 4　AI によるハリス副大統領演説の意味合いと課題

資料：筆者作成

ただし、このようなAIによる分析にも限界があることを認識しておく必要がある。たとえば、AIは文化的文脈や歴史的背景を十分に理解できないことがあり、また政治学者や心理学者など専門家の経験にもとづく洞察を完全に代替することもできない。

さらに、AIの分析結果の解釈や活用方法によっては、ハリス氏の演説の影響力を過大評価したり、誤って解釈したりするリスクも存在する。したがって、AIによる分析と専門家による従来の分析を適切に組み合わせて検討することが重要である。

また、AIの分析手法や解釈の透明性を高め、結果の信頼性を検証するための客観的な基準を設けることも必要である。AIによる政治演説の分析が選挙過程に与える影響については、慎重に検討を進める必要がある。たとえば、AIによる分析結果がハリス氏の選挙運動に変化をもたらす可能性や、有権者の判断に影響を与える可能性などを検証しなければならない。

現時点ではAIによる分析はあくまでも補助的なものであり、最終的な判断や意思決定は人間が行うべきだが、将来的に演説の質と効果を把握する画期的なツールとなる可能性がある。政治演説の本質を理解するうえで重要なのは対話と洞察であり、AIはそのプロセスを支援し、新たな視点を提供する役割を果たすものといえる。